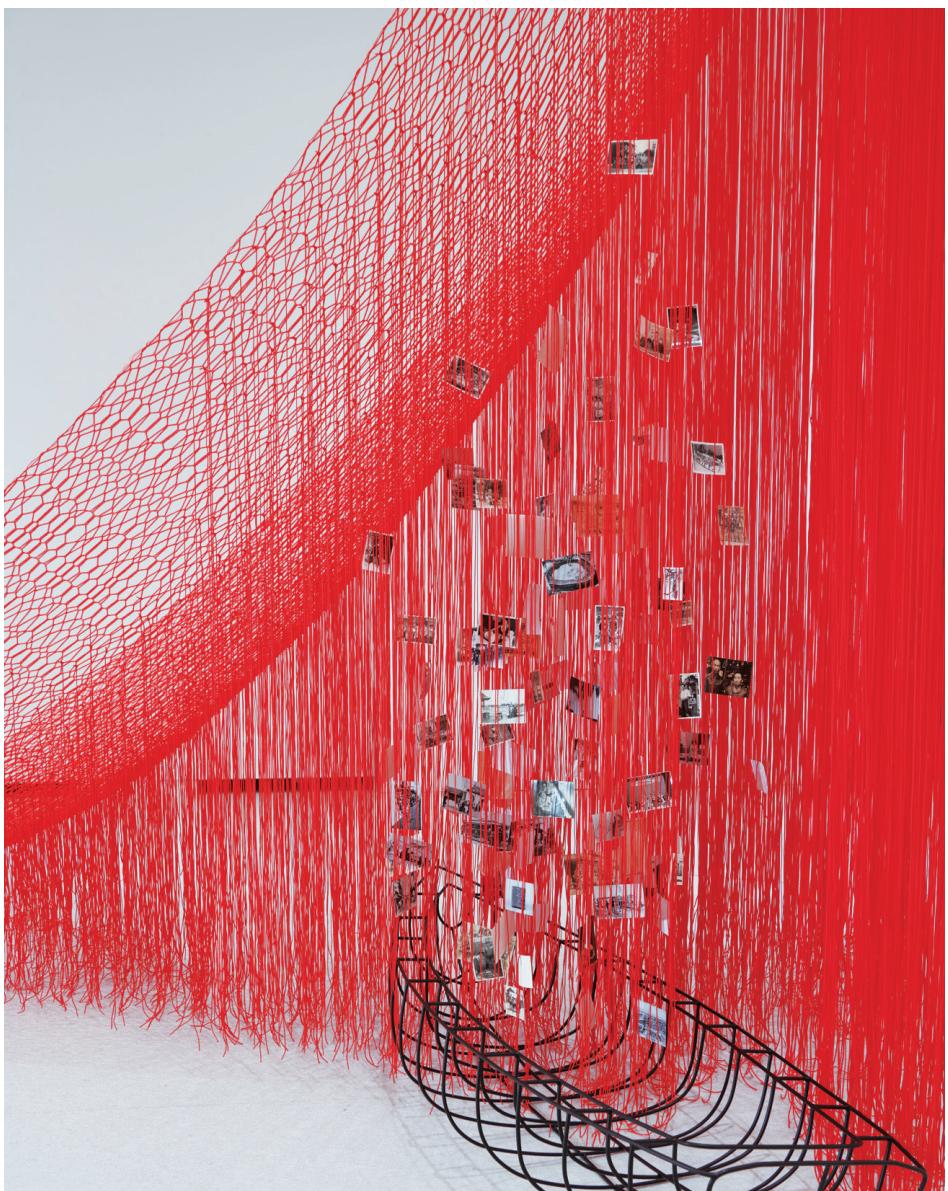


e s p /  
e p e u

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館

esplanade [エスプランード]  
JANUARY 2024 | NO.214





本作は作家が福岡市美術館のため  
に制作したものです。当館2階近現代  
美術室に展示するため制作された  
高さ5mの大きな作品で、福岡の歴史  
をテーマとしています。床から天井へ  
とつながる斜めの構図は、過去から未  
来への時間軸を示します。船は、過去  
から現代まで、人や荷物を運ぶことで  
世界とつながってきた福岡の交流の  
象徴です。無数の赤い糸は、過去からう

日本において、最もアジアに近い位置で、世界と交易をしてきた福岡。この土地に残るさまざまな記憶を繋ぎ留めた本作は、鮮烈な赤と、角度によつて表情を変える印象的なその形によって、観る者の記憶に残り、新たな希望の物語を紡ぎだそうとしています。

天井から大きな絹巻物を広げたかのように、斜めに広がる赤い網。そこから垂下する無数の赤い糸の下に、鉄製の船が置かれています。船の上の糸には、船から湧き出たかのように、あ  
るいは船に吸い込まれているかのよう、たくさんのが飛び交っています。

使われている写真は約110枚。主に福岡市博物館より提供された福岡の歴史に関わる資料の画像、また福岡市で撮影された家族写真や記念写真

## 所蔵品紹介

## 記憶をたどる船

表紙の作品

塩田千春 SHIOTA Chiharu (1972-)  
2023  
ロープ、鉄棒、写真  
500×500×280cm  
©JASPAR, Tokyo, 2023 and Chiharu Shiota  
撮影:スタジオ・バッシュン 山崎信一

# esplanade

[エスプラナード]  
JANUARY 2024 | NO.214

contents

- 03 所蔵品紹介
  - 04 福岡にローマがやってくる！
  - 06 オチ・オサムってどんな人？
  - 08 こんにちは！国際涉外担当です。
  - 09 65歳、意気揚々と、アートと生きる。
  - 10 美術館スケジュール（1～3月）

当館2階、近現代美術室出口横の壁面に描かれた田中千智さんの《生きている壁画》。2023年1月に完成しましたが、「社会や自分の変化で感じたものを、リアルタイムに反映させたい」という作家自身のアイデアにより、2024年1月、2025年1月と1年毎に加筆されます。1月5日からは、会場で絵筆をとり、描く田中さんに出会えるかもしれません。壁画は1月末に完成予定です。

# ROMA



## カピトリーノ美術館のコレクション

教皇から寄贈されたコレクションを核として設立され、1734年に一般公開が始まったカピトリーノ美術館は、世界的にもっとも歴史の古い美術館の一つに数えられています。ローマの観光地としても人気の高い同館のコレクションの中から、選りすぐりの名品をご覧いただけます。



ピエトロ・ダ・コルトーナ《聖母子と天使たち》  
1625-30年／油彩、カンヴァス／カピトリーノ美術館 絵画館蔵  
©Roma, Sovrintendenza Capitolina ai Beni Culturali / Archivio Fotografico dei Musei Capitolini



## 日本初公開! 《洗礼者聖ヨハネ》



右ページの作品をご覧ください。悪戯っぽく微笑む聖ヨハネがこちらに顔を向けています。左上から照らす光によって陰影を劇的に演出された本作は、光による明暗表現で有名なイタリアの画家カラヴァッジョによって描かれました。主題について研究者によって様々に解釈されてきた本作が、この度、福岡会場限定で公開されます。

作品全体の画像はp4をご参照ください。



## 見どころ! ローマの二千年の歴史を辿る

建国神話にはじまり、古代ローマ時代の栄光、芸術の最盛期を迎えたルネサンスからバロック、そして17世紀以降の時代まで、「永遠の都」ローマを巡り生み出された壮大なる美の歴史を辿ります。ローマを建国したロムルスが、双子のレムスとともに赤子の頃に一匹の牝狼から授乳され命を救われたというエピソードから作られた《カピトリーノの牝狼》も展示されます。



《カピトリーノの牝狼(複製)》20世紀(原作は前5世紀)／ブロンズ／ローマ市庁舎蔵  
©Roma, Sovrintendenza Capitolina ai Beni Culturali / Archivio Fotografico dei Musei Capitolini



## 見どころ! 高さ1.8m! 《コンスタンティヌス帝の頭部》

古代ローマ帝国の栄華を象徴する《コンスタンティヌス帝の巨像》の一部を原寸大複製で展示します。本展では、巨像の頭部、左足、左手、さらにルーヴル美術館で近年発見された人差し指の複製をあわせて展示します。コンスタンティヌス帝の手も含めた迫力ある巨大彫刻を間近でご覧いただき、ローマ皇帝だからこそなしうたダイナミックな古代芸術を体感してください。



《コンスタンティヌス帝の巨像の頭部(複製)》  
1930年代(原作は330-37年)  
石膏にブロンズ(原作はブロンズ)  
ローマ文明博物館蔵  
©Roma, Sovrintendenza Capitolina ai Beni Culturali / Archivio Fotografico del Museo della Civiltà Romana



《コンスタンティヌス帝の巨像の左手(複製)》  
1996年(原作は330-37年)  
石膏にブロンズ(原作はブロンズ)  
ローマ文明博物館蔵  
©Roma, Sovrintendenza Capitolina ai Beni Culturali / Archivio Fotografico del Museo della Civiltà Romana



《コンスタンティヌス帝の巨像の左足(複製)》  
2021年(原作は312年頃)  
ガラス繊維強化プラスチック(原作は大理石)  
ローマ文明博物館蔵  
©Roma, Sovrintendenza Capitolina ai Beni Culturali / Archivio Fotografico del Museo della Civiltà Romana



カラヴァッジョ《洗礼者聖ヨハネ》1602年／油彩、カンヴァス／カピトリーノ美術館 絵画館蔵  
©Roma, Sovrintendenza Capitolina ai Beni Culturali / Archivio Fotografico dei Musei Capitolini

年明け早々に開催する「永遠の都ローマ展」。本展では、カピトリーノ美術館の所蔵品を中心に、建国から古代の栄光、教皇たちの時代から近代まで、約70点の彫刻、絵画、版画等を通じて、「永遠の都」と称されるローマの歴史と芸術を紹介します。

ローマの二千年もの歴史と文化は、かつて最高神ユビテルらの神殿がおかれたカピトリーノの丘を中心に築かれました。その丘に建つカピトリーノ美術館は、世界的にもっとも古い美術館の一つとされ、ルネサンス時代の教皇シクストゥス4世がローマ市民に4点の古代彫刻を寄贈したことから始まりました。古代遺物やヴァチカンに由来す

る彫刻、また当時の名家からもたらされた絵画など、その多岐にわたる充実したコレクションから、古代ローマ帝国の栄華や歴代教皇がもたらした繁栄と衰退など、ヨーロッパにおける政治、宗教、文化の拠点として発展したローマの歴史そのものを辿ることができます。

さらに今回は絵画コレクションの中から日本初公開となるカラヴァッジョ作《洗礼者聖ヨハネ》(1602年)を展示します。カピトリーノ美術館の選りすぐりの作品に囲まれ、永遠の都ローマで流れる時間を体感することができます。

—— 学芸員(近現代美術係)  
渡抜由季

### 展覧会情報

◇会期…1月5日(金)～3月10日(日)

◇会場…2階特別展示室

◇観覧料…一般 1,800円、高大生 1,200円、小中生 600円、未就学児は観覧無料

# 福岡にローマがやってくる!

今なお私たちを魅了してやまない、イタリア・ローマ。その二千年にわたる歴史と芸術のエッセンスが、ここ福岡にやってきます。イタリアの空気を感じに、当館へお越しください。

### 永遠の都ローマ展

# オチ・オサム って



## どんな人？

作品を見ると、ずいぶん奇妙で、ちょっと怖そうで、そしてずいぶん自由。一体この作品群を作ったのは、どんな人なのでしょう？九州派の一人として活躍した作家、オチ・オサムを特集する展覧会を開催します。

福岡を拠点に活動した美術家のオチ・オサムは、1955年の二科展入選を契機に頭角を現し、前衛美術グループ「九州派」の中心メンバーとして活動しました。オチは、身近な素材を用いる制作手法を他のメンバーと共有し、オブジェ制作にいち早く取り組むことで、九州派の活動を造形的にも思想的にも牽引しました。1960年代から70年代にかけては2度渡米し、帰国後は、同地で得たインスピレーションを発展させ、宇宙を思わせる仮想空間に様々なモチーフが浮遊する、幻想的な絵画に取り組みました。

このたび、オチ・オサムのご遺族のご協力を得て、ひたむきに表現し続けたオチのユニークな仕事を振り返る企画展を開催いたします。当館のコレクションを含む約180点の作品と資料をご覧いただく、美術館では初めての回顧展です。

オチの作品群は一見して緻密でミステリアスな印象を与えますが、残された資料や活動を紐解けば、彼の人間味あふれる一面が浮き彫りになります。戦後福岡の文化人たちと交流しながら、創造的に生きたオチの人と作品の魅力を感じていただければ幸いです。

—— 学芸員(近現代美術係) 忠あゆみ

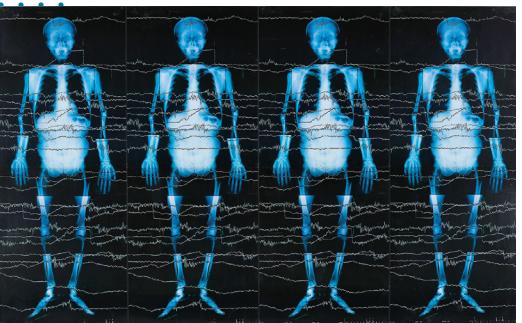
顔写真:フクニチスポーツ1972年[発行日不明]「強くなろうぜ！ライオンズ改造論」より



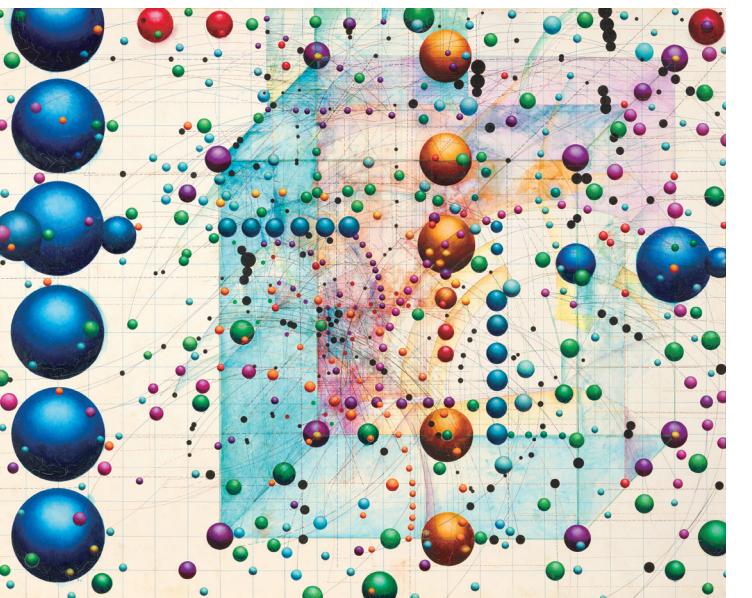
「前衛たちの軌跡(5)殺氣を思い出し 空白を埋める」  
(西日本新聞夕刊、1988年10月3日付)より

## 生涯描き続けた人

オチは、1988年のインタビューで「今でも自分は前衛だし、九州派だ」と述べています。その言葉通り、亡くなる直前まで自宅のアトリエやリビングで毎日絵を描き、レントゲン写真やトランプなど、新たなモチーフとの出会いによって作品世界を拡張し続けました。今回の展示では、晩年の精力的な活動ぶりをうかがわせる作品群をご紹介します。



オチ・オサム《脳波による自画像四面体》1986年／福岡市美術館蔵



《球の遊泳 II》1979年／福岡市美術館蔵

オチのトレードマークといえば、仮想空間に球体が描かれた絵画シリーズです。「内なる天体」「小宇宙日記」など名づけた球体シリーズのなかで、ときに列を作り、ときに細い線で結ばれた球体たちは、オチの心模様を代弁しているようです。CG技術に先駆け、オチは仮想空間で遊ぶ術を身につけていたともいえるでしょう。

遊んだ人  
球体に魅せられ、

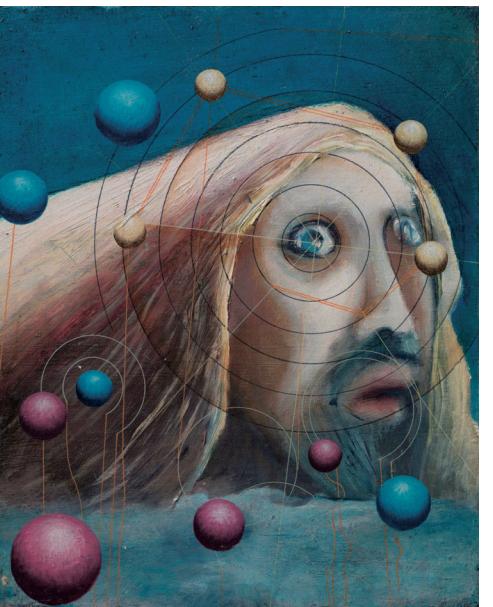
1966年、オチはアメリカ・サンフランシスコに渡ります。この時アメリカはヒッピーカルチャーの全盛期。現地で出会ったサイケデリックアートやビートニク詩に大いに触発されたオチは、「花畠のよう」だったと述べています。帰国後の油彩作品には、当地での特別な体験をほうふつとさせる幻想的な世界が広がっています。



《題不詳》1961年／撮影:森永純(「九州派展」銀座画廊 展示風景)

## あらゆるもの 「絵の具」にする人

印刷会社に勤務していたオチは、業務に用いるアスファルトで絵を描くことを試み、アスファルトやベニヤ等を使った絵画で、一躍脚光を浴びました。やがて、煙草の吸い殻、マネキン等を素材としたオブジェも発表します。日用品を表現媒体＝「絵の具」にする点に、生活と芸術は地続きなのだという態度が現れています。



《題不詳》1970年代／オチ・オサム事務所蔵 ©EUREKA 2020

ヒッピーカルチャーの  
開花に立ち会った人

## 企画展 オチ・オサム展

会期：1月24日(水)～3月24日(日)  
会場：2階 近現代美術室A・B

# 65歳、意気揚々と、アートと生きる。

毎年3月は「いきヨウヨウ講座」。65歳以上のためのプログラムです。  
これまでアートに親しんできた人も、そうでない人もぜひ楽しくご参加ください。



2013年度から開催している65歳以上ための教育普及プログラム「いきヨウヨウ講座」。毎年3月に当館所蔵品を題材に、さまざまな活動を行っています。

同プログラム開始のきっかけは、まさに65歳を迎えるやうとしていた職員の一言でした。当時、美術館の教育プログラムはこどもや学校を対象としたものが中心で、シニア世代を対象としたものはほとんどありませんでした。そこで、自分が参加したいと思えるような、大人が美術や美術館を楽しみ、心の充実を実感できる美術教育活動をしたいという想いから「いきヨウヨウ講座」が誕生しました。

毎回、参加者は制作活動や鑑賞活動を楽しむのはもちろん、参加者同士のおしゃべりも弾み、初めて会った者同士がすっかり打ち解ける様子には、清々しさを感じます。

意気揚々と生きたい、と願う心に年齢は関係なさそうですね。高齢者向けのプログラムが、多くの美術館で広がることにも期待したいです。

学芸員（教育普及係）崎田明香

次回のいきヨウヨウ講座は2024年3月に開催予定です。  
当館の所蔵品を題材に楽しいプログラムを行いますので、65歳以上の皆様の参加をお待ちしています。詳細は1月中旬以降に当館ホームページをご覧ください。



第1回（2013年度）のテーマは「わたしの桜、わたしの梅」。「桜と梅」に関する作品を鑑賞し、1年後の自分宛に桜と梅の思い出を描いた絵手紙を作成。1年後に参加者へ郵送しました。



2022年度は香りをテーマに「今日の気持ちを香りに変える」というプログラムを実施。展示室で作品にまつわる香りを実際にかいで楽しみながら作品を鑑賞し、大分香りの博物館・大津留聰さんを講師に、匂い袋と文香を制作しました。

国際涉外はその名の通り、海外とのやり取りを担当するお仕事です。海外からのお客様を文案内したり、お問合せの対応をしていますが、普段は、日本語から英語へ、英語から日本語へと文章を翻訳する仕事が多く、とくに、展覧会の説明文や挨拶文、作品解説等の英訳業務が中心です。展覧会の担当学芸員さんから、展示のこの部分の英訳が欲しい！と依頼があるので、締め切りに間に合うように翻訳に取り掛かります。

私の場合、文章を一通り英訳した後、文章の意図や語の意味合いをできるだけ正確に伝えるために、担当学芸員さんと一緒に部分を確認し修正を重ねています。また過去に開催した、同

じテーマや作家の展覧会図録等を参考にすることもあります。古美術展示の翻訳も近現代美術展示の翻訳も、それぞれ異なる難しさがあるのですが、学芸員さんの思いや作品の魅力が幅広い来館者の方々に届くよう、日々、日本語と英語の間で試行錯誤しております。気が向いたら、展示会場の英訳文にもぜひ目を向けてみてください。

翻訳業務のお供たち。福岡市美術館の『ザ・ベスト』図録はいざという時に役立ちます。



「夏休みこども美術館 2023」の英語の解説は海外のお客様からも好評でした！頑張った甲斐があります。

私が担当する展覧会をご紹介します／  
アジアの染織 インド、インドネシア、カンボジア

会期：2月20日(火)～4月21日(日) 会場：1階 古美術企画展示室

アジア各地では、個性豊かな染織品が時代を超えて人々に愛されてきました。本展では、当館の豊富な染織コレクションから、南アジア・東南アジアの名品を紹介します。

「一んにちは！」  
国際涉外担当です。

みなさんは美術館に「国際涉外」という仕事があるのをご存知でしょうか？ いつたい普段どのような仕事をしているのか、当館で活躍中の国際涉外担当が、自己紹介を兼ねてご説明いたします。



# 美術館スケジュール

休館日

1月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日

2月

3月

1月5日(金)～3月10日(日)

・永遠の都ローマ展

通期

・コレクションハイライト(近現代美術室A)

11月7日(火)～1月21日(日)

・日本画にみる人物表現(近現代美術室A)

10月27日(金)～1月21日(日)

・九州の女性画家たち2(近現代美術室B)

通期

・コレクションハイライト(近現代美術室C)

1月24日(水)～3月24日(日)

・オチ・オサム展(近現代美術室A・B)

佐賀県出身の美術家オチ・オサム(1938-2015)の晩年までの作品・資料を紹介し、その幅広い活動の軌跡をたどります。  
詳細はp6-7をご覧ください。

12月19日(火)～2月18日(日)

・狩野派絵画名品展(古美術企画展示室)

1月16日(火)～3月17日(日)

・シリーズ 茶の湯交遊録Ⅲ 原三溪と松永耳庵(松永記念館室)

通期・東光院のみほとけ(東光院仏教美術室)

2月20日(火)～4月21日(日)

・アジアの染織 インド、インドネシア、カンボジア(古美術企画展示室)-----:

当館の豊かな染織コレクションから、南アジア・東南アジアの名品を紹介します。

## LECTURE

## つきなみ講座



JANUARY-MARCH 2024

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料。申し込み不要。※先着順(30分前開場)※定員等は変更になることがあります。  
詳細は美術館ホームページをご確認ください。

## 2月 オチ・オサムの人と作品



福岡を拠点に活動した美術家のオチ・オサムを知っていますか?開催中の「オチ・オサム展」にちなみ、たばこの吸い殻から提灯まで、幅広い素材を用いて制作したオチの作品を紹介します。

日時: 2月10日(土)15:00-16:00

会場: ミュージアムホール(定員180人)

講師: 忠あゆみ(学芸員・近現代美術係)

## 1月 松永コレクションにみる原三溪旧蔵品

原三溪(1868-1939)は松永耳庵の茶に多大な影響を与えました。松永コレクションに含まれる原三溪旧蔵の名品、それらにまつわるエピソードを通じて両氏の交遊、松永の原への敬慕の念を辿ります。

日時: 1月27日(土)15:00-16:00

会場: レクチャールーム(定員54人)

講師: 後藤恒(学芸課長)



## 3月 美術の翻訳をめぐるあれこれ

展覧会の挨拶文やキャプション、解説文にはしばしば英訳が併記されていることに、皆さんお気づきでしょうか。美術館で目にする英訳がどのように作成されているかについてお話しします。

日時: 3月16日(土)15:00-16:00

会場: レクチャールーム(定員54人)

講師: 太田早耶(国際専門担当)

## ギャラリー A-F 2階

2024年1月5日(金)～1月8日(月・祝)

・第70回 福岡県小学校児童画展  
(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年1月10日(水)～1月14日(日)

・令和5年度 水源の森  
ポスター原画コンクール(ギャラリーA)  
・福岡県立太宰府高等学校芸術科  
(美術・書道)第36回卒業制作展  
(ギャラリーB,C,D,E)  
・サトウ タカシ展(ギャラリーF)

2024年1月16日(火)～1月21日(日)

・令和5年度 中央区高齢者作品展  
(ギャラリーA)

・第38回 福岡市中学校美術部合同作品展  
(ギャラリーB,C,D)  
・アトリエムナカタ仲間達展(ギャラリーE)  
・日本空間デザイン賞2023  
日本サインデザイン賞2023 受賞作品展  
(ギャラリーF)

2024年2月14日(水)～2月18日(日)

・第33回 福岡県中学校美術作品展  
(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年2月20日(火)～2月25日(日)

・第5回 薫園書友の会作品展(ギャラリーA)  
・第7回 福岡市立博多工業高等学校  
インテリア科卒業制作展(ギャラリーB,C,D)  
・令和5年度 福岡大学書道部展  
(ギャラリーE,F)

2024年2月27日(火)～3月3日(日)

・第49回 西日本書美術展  
(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年3月5日(火)～3月10日(日)

・子どもデジタル・デザインコンテスト入賞作品展  
(ギャラリーA)  
・福岡二紀展(ギャラリーB,C,D)  
・福岡教育大学中等教育教員養成課程書道専攻  
第22期生 卒業書作展(ギャラリーE,F)

2024年3月12日(火)～3月17日(日)

・2023アジアデジタルアート大賞展FUKUOKA  
(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年3月19日(火)～3月24日(日)

・第107回 二科展(福岡巡回展)  
(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年3月26日(火)～3月31日(日)

・第55回(令和5年度)福岡市美術展  
(ギャラリーA,B,C,D,E,F)



AZUSA SEKKEI 梓設計

本社 〒144-0042 東京都大田区羽田旭町 10-11  
九州支社 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 5-23-8  
<https://www.azusasekkei.co.jp>

福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体



ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」(ふるさと納税による寄付)を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに!もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ (<http://www.ffac.or.jp/wa/>) またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

RESTAURANT & CAFE

レストラン・カフェ

展覧会「永遠の都ローマ展」コラボメニュー

レストラン ブルヌスでは、本展会期中(1/5 ~ 3/10)、パスタフェアを開催。イタリア語で“寄り道”を意味するパスタセット、観覧後に“寄り道”して多彩なパastaとの出会いをお楽しみください。カフェアクアムではイタリアにちなんだスイーツも。

パスタセット  
~Deviazione デビアチオーネ~  
2,600円~(税別)

アフォガード  
750円(税別)

ホットチョコレートドリンク  
750円(税別)

大濠パンケーキ(冬季限定版)  
1,200円(税別)



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館  
ウェブサイト

[www.fukuoka-art-museum.jp](http://www.fukuoka-art-museum.jp)



esplanade JANUARY 2024 | NO.214

福岡市美術館 季刊誌エスプラナード214号 発行日:2024年1月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社【西日本新聞社】【編集】浅野佳子(nico edit)【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロタクツ【発行】福岡市美術館(〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 [https://www.fukuoka-art-museum.jp](http://www.fukuoka-art-museum.jp))

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL:092-714-6051(代表) FAX:092-714-6071  
【開館時間】 9:30~17:30 (7月~10月の金・土曜日は9:30~20:00) ※入館は閉館の30分前まで。  
【休館日】 月曜日、年末年始(12月28日~1月4日)※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日)